

2025年度事業報告・収支決算を承認

第3回(通算第179回)通常議員総会



7月21日、神戸商工会議所は第3回(通算第179回)通常議員総会を開催した。正副会頭をはじめ役員・議員の出席のもと、2025年度事業報告・収支決算が審議され、いずれも原案通り承認された。

2025年度事業においては、米国の関税政策や中東情勢の混乱により不透明感が強まる中、原材料・資源価格の高騰、慢性的な人手不足などの経営課題を抱える中小・小規模事業者に対し、事業継続・承継に向けた支援を行うとともに、経営指導員による伴走型支援を通じて新事業展開をサポートした。また、販路拡大に向けて国内外で商談会や展示会を実施したほか、人材確保支援として大

学の就職担当者との交流イベントや外国人材採用促進セミナーを開催した。

スタートアップ支援では、地元出身の起業家として活躍する経営者による組織「神戸イノベーション・リーダーズ」や、主要企業の新規事業担当者が集う「神戸イノベーション・コミュニティ」が中心となり、次代を担う企業の育成と地元企業との協業を促進。あわせて、DX・AI導入、脱炭素・GX、スポーツ産業振興など幅広い分野でイノベーション創出に取り組んだ。

また、2025年4月の大阪・関西万博の開幕、神戸空港における国際チャーター便の就航を契機に、国内

外の経済団体の視察受け入れや懇談、韓国・台湾など就航都市へのトッププロモーションを行うなどビジネス交流促進に努めるとともに、神戸の都市と産業の魅力を国内外に広く発信した。

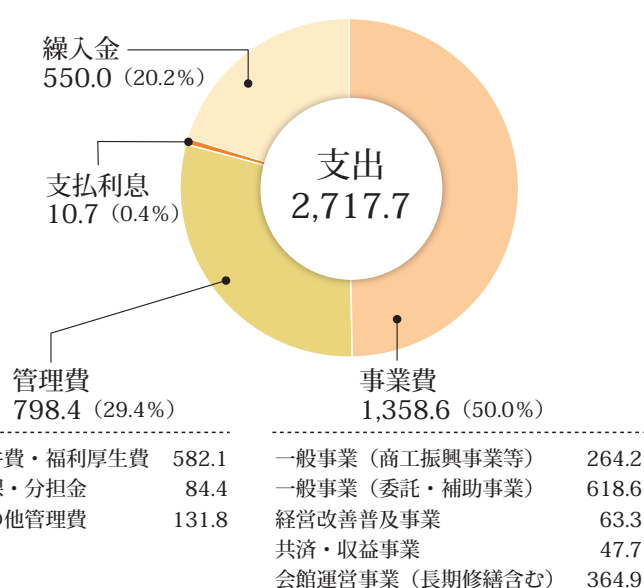
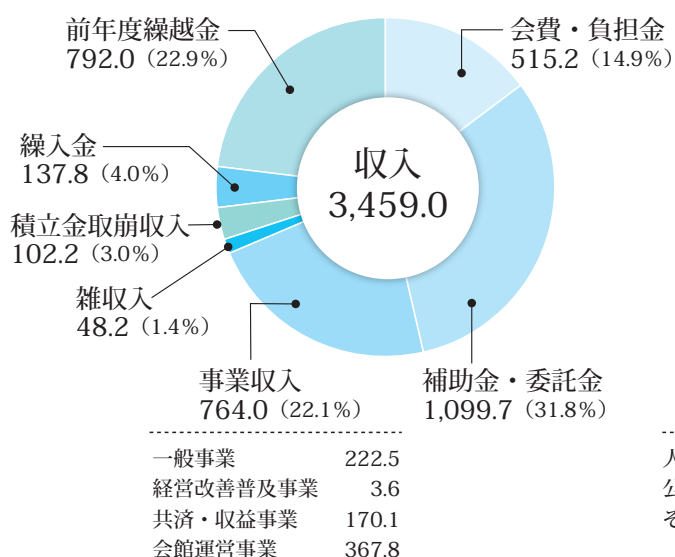
議案

- 第1号議案 2025年度事業報告の件
- 第2号議案 2025年度収支決算の件
- 第3号議案 その他

議案審議の終了後、近畿経済産業局長の武田家明氏を講師に迎え、「今後の関西経済について」をテーマに講演会を開催した。

2025年度 事業会計収支決算

(単位：百万円)



※特定退職金共済掛金保険料 (678.3百万円) および退職給付金 (895.4百万円) は除く。

※収支差額741.4百万円は次年度へ繰り越す。

※端数処理の関係上、各項目の金額と合計が一致しない場合や、構成割合の合計が100%にならない場合があります。

7.7

物流分野の先端技術を地元企業に紹介

スタートアップピッチ「『港町神戸』を舞台に物流テックのスタートアップが集結！」

当商工会議所は、特定のテーマに焦点を当てたスタートアップのピッチイベントを日本政策金融公庫、神戸市、アンカー神戸と共同で定期的に開催している。今回は、「物流テック」をテーマに、最新の技術や独自のソリューションによって物流分野の課題解決を支援するスタートアップ企業が登壇し、自社の取り組みや技術力をアピールした。

近接覚センサー技術を核としたロボットハンド「Think Hand F」を開発する(株)Thinker、倉庫ネットワークを活

用した物流ソリューションを提供する(株)souco、物流・建設・製造業に特化した人材プラットフォーム事業やIT事業を展開するXMile(株)、貿易における受発注業務をクラウド上で一元管理するシステム「おまかせ貿易」を提供する(株)STANDAGEなど6社が登壇し、自社技術を紹介した。

参加者は、物流業界で活用される最新ソリューションについて理解を深め、ピッチ終了後には、今後の連携や技術活用に向けて活発な意見交換が行われた。



産業部産業振興チーム

7.8

世界最大級の生涯スポーツ国際大会の魅力を紹介

ワールドマスタースゲームズ2027関西を知ろう！

神戸スポーツ産業懇話会は、2027年5月に開催される生涯スポーツの国際競技大会「ワールドマスタースゲームズ2027関西」をテーマにセミナーを開催した。国内初開催となる同大会は、関西各地を舞台に国内外から約5万人の参加が見込まれ、スポーツツーリズムの活性化や地域経済への波及効果も期待されている。

同大会組織委員会事務局長の森健夫氏は、「海外からも約2万人の参加が予定されており、ぜひ関西や日本全体の周遊につなげてもらいたい」と強調。その後、兵庫県・神

戸市の担当者が各都市での開催競技について紹介し、エントリーの呼びかけとともに企業としての参画・協力を促した。

また、同大会組織委員会理事で神戸大学名誉教授の山口泰雄氏は、「これまでの大会では国外参加者は平均15日間滞在し、スポーツツーリズムが実践された」と大会の意義や効果を強調するとともに、選手の相互交流を促進するため、“選手同士の出会いの場”を設けることを提唱した。



産業部産業振興チーム

“持続可能な産業のあり方”について意見交換、川崎会頭が参加

兵庫経済フォーラム

兵庫県内の地場産業の多くが市場の縮小や後継者不足などの課題を抱える中、“持続可能な産業のあり方”について議論するフォーラムが三木市で開催され、川崎会頭をはじめ県内商工会議所会頭らが出席した。

1日目は、三木の地場産業である金物の製造現場を視察。日本で唯一「肥後守」を製造する(株)永尾かね駒製作所では、鋼を鍛造・成形し強い刃をつくる工程を見学し、フランス専門誌での特集を機に海外需要が急伸した事例について説明を聞いた。

2日目のシンポジウムでは、地場産業や農業、スポーツビジネスなど様々な立場の登壇者が“持続可能性”に向けた取り組みを発表。その後、齋藤知事、川崎会頭、地場産業経営者らが登壇し、兵庫県内の地場産業が抱える課題について活発な意見交換が行われた。国内外への魅力発信について、川崎会頭は、「神戸空港の国際化を踏まえ、地場産業の視察やゴルフ、医療などを組み合わせたツーリズムの企画も考えられる」と語った。



総務部総務チーム

企業と留学生の“本音”を聞き、相互理解を深める

外国人留学生の採用・就職のリアル!トークセッション&交流会

外国人材の採用を促進し、企業と外国人留学生の相互理解を深めることを目的に、(一社)大学コンソーシアムひょうご神戸と共催で交流イベントを開催した。

企業事例紹介では、外国人社員を採用している(株)創発システム研究所と日本総業(株)が登壇し、採用のきっかけや外国人材の定着に向けた取り組みを紹介した。

その後、企業や県内大学、留学生の就職支援機関、兵庫県立大学・流通科学大学の留学生が登壇し、トークセッションを実施。留学生の“リアルな姿”を知るとともに、留

学生が企業で活躍するためのヒントを探る機会とした。

(一社)大学コンソーシアムひょうご神戸の鈴木真紀子氏は、「外国人社員に寄り添った対応を取ることは、結果として日本人社員が働きやすい環境づくりにもつながる」と強調した。

参加企業からは、「採用する企業側、就職を希望する留学生側双方の本音を知ることができた」「留学生と交流する中で、コミュニケーション能力の高さを実感した」との声が聞かれた。



会員事業部事業推進チーム

4.10～7.31

大学生が老舗焼き鳥店の魅力を分析・見える化

神戸商工会議所×神戸女子大学 産学連携事業

神戸商工会議所の会員事業所「焼き鳥のんちゃん」（(有)辻野商店）の協力のもと、神戸女子大学と初の産学連携事業を実施した。

「創業60年超の老舗焼き鳥店を100年企業にするには」をテーマに、同大学の学生13名が店舗訪問や店主へのヒアリングなどを実施。常連客とは異なる若者の視点から、“伝えきれていない店の魅力”の見える化に取り組んだ。

複数回の授業を通して、学生らは新規客・若者がまず何

を頼めばよいかを分かりやすく伝える「おすすめメニュー表」や、店のこだわりや魅力を視覚的に伝える「店内ポップ・チラシ」、「PR用のSNS」を制作。メニュー表と店内ポップについては、1か月間店舗に設置し、来店客へのアンケート調査を通じて効果検証を行った。

(有)辻野商店の辻野美千代氏は、「常連客とのやりとりだけでは見えていなかった課題を指摘してもらえた。今後の店づくりに活かしたい」と語った。



中央支部

7.14

複数企業の仲間とともに 入社3カ月の自己点検

新入社員3カ月フォローアップセミナー



新入社員を対象に、ビジネスマナーや報連相の基本を再確認すると同時に、成長意欲を高める思考法を学ぶため、(株)経営人事教育システムの華多真美氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

華氏は、「失敗を成長の過程と捉えることで、レジリエンス力が身につく。小さなことでも良いため、挑戦の一步を踏み出してほしい」と強調した。

参加者からは、「ビジネススキルの基本を再確認でき、初心に立ち返ることができた。少しでも戦力になれるよう、成長していきたい」との声が聞かれた。

会員事業部事業推進チーム

7.22

AIエージェントによる 業務自動化を体感

経営者が知っておくべきAI活用の基礎知識とAIエージェント体験セミナー



AIの基礎知識と活用ノウハウの習得、AIエージェントの体験を目的に、monoAI technology(株)代表取締役社長の本城嘉太郎氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

本城氏は、トップダウンによるAI活用推進の取り組み“AIブートキャンプ”を紹介。同社の社員が請求書処理や健診調整の自動化、動画や日報の自動生成に実際に取り組んだ事例とともに、AI活用の勘所を解説した。

体験ワークでは、それぞれの参加者がAIエージェントツールを操作して議事録生成や競合調査、企画書作成を実践し、業務の自動化とその効果を体感した。

産業部産業振興チーム